

# 広島都心における商業集積の現状と課題

—— 小売業・サービス業を中心として ——

M031597 折出 茂 樹

## 1. 研究の目的と背景

地方分権の推進による市町村合併や経済のソフト化・サービス化、さらには知識化時代とも言われている時代背景のなかにあつて、広島のような中四国地方を代表する地方中枢都市がどのようにあるべきかを、都市の顔である都心に視点をあて、その都心のなかでも、小売業とサービス業に重点をおいて現状と課題を考察した。

## 2. 都市の成長と都心の役割

都市が持続的に成長するための都市形態として、コンパクトシティがある。コンパクトシティの形成には、都心の役割は重要である。都心は、都市の個性と独自性が最もよくあらわされたエリアであることから、都心の活気により、都市の持続性を高め、都市の郊外化・拡散を防ぐことにつながり、都市をコンパクトに形成するのである。

また、広島市の商業の現状では、小売業は、郊外への大型小売店舗の進出により、都心の地位が低下傾向にあり、サービス業は、サービスの多様化が進み、専門性の高い多様な業種が増加している現状にある。さらに、広島市の都心は一極集中型でコンパクトな都心となっている。

## 3. 広島都心の地域特性分析

広島都心の実態調査をタウンページから行い、広島都心の地域特性の実態を把握するとともに課題を抽出した。実態調査では、「都心の産業発展からみたサービス機能」「都心への来街者からみたサービス機能」「小売業からみた都心と周辺の機能」の3つを調査目的の大項目とし、さらに5つの分野を設定するとともに、最終的にタウンページから27業種を抽出して行った。そして、1995年と2000年のデータを比較し、GISソフトを活用して分析を行った。さらに、傾向別グルーピング、ジニ係数による集中傾向度分析を行って、最終的に集中分散別グループによる分析を行うことで、広島都心における商業集積の課題を抽出した。集中分散別グループは、Aグループ（成長・集中）、Bグループ（成長・分散）、Cグループ（停滞または衰退・分散）、Dグループ（停滞または衰退・集中）の4つのグループに分け、分析を行った。その調査結果から、広島都心の商業集積は、紙屋町・基町から八丁堀周辺エリアの一極集中型を示し、集中分散別グループの状況から、全体の集積傾向は、都心へ集積し

ているというよりもむしろ分散傾向にあることが把握できた。このことから、全体的には、集積が集積をよぶという好循環になっていないことが考えられる。そのような中でも、「IT・情報サービス・調査業」の分野は、高度で先端的な需要が想定され、今後の都心への集積が期待できる分野である。

## 4. 都心集積に向けた課題と取組み

実態調査の結果を踏まえた全体的な課題としては、①成長している業種が少ない、②集中よりも分散傾向にある、③JR広島駅周辺への集積が少ないことがあげられる。また、調査目的ごとの課題として、「都心の産業発展からみたサービス機能」では「成長し集中している業種がない」、「都心への来街者からみたサービス機能」では「若者交流サービスの集積は夜型が多い」、「小売業からみた都心と周辺の機能」では「都心の衰退が進展している」ということがあげられる。

また、課題に対する取組みとしては、サービス業に関連して、都心立地の起業支援、産学官連携や幅広い人々の交流、集積による新たなビジネスチャンスの開拓、都心ブランド力の向上、時代に対応した若者空間の創出があげられ、小売業に関連して、高度な消費空間の形成、都心と周辺の役割分担があげられる。全体に関わる課題としては、都心の広域拠点性の向上、都市の管理があげられる。このように、都市の顔としての都心の重要性を認識し、都心の強化・充実を図る必要がある。

## 5. まとめ

今後の課題としては、①最新タウンページデータの活用、②国勢調査データの活用、③GISソフトによる詳細分析、④複数項目によるグルーピングの実施、⑤個別具体的な取組み、⑥他先進都市との比較分析、⑦小売業と個人向けサービス業の融合など、新たな視点や分析が必要である。

実際の業種にもとづいた実態調査を行い、広島都心の現状と課題を抽出したが、広島都心は中四国地方における中枢都市広島都市の顔としての役割を果たすためにも、更なる集積を行い、都市機能の強化・充実を図ることで求心力を高めていくことが重要である。広島の持続的発展のためには、都市の核となる都心が衰退することがあってはならない。そのためには現在の都心産業である商業機能の分散傾向に歯止めをかけ、集積を高めていくことが重要である。